



翼



第3号 令和5年6月9日 発行

校長 井上 雅子

「主体的を育てる学びを目指して」

今、「チャット GPT」が話題です。対話型人工知能で、人間のよう自然な会話ができるもので、文章が見事なことはもちろん、人間味のある回答ができるのだそうです。しかし膨大な情報を集めて AI が作成するため個人情報が出て、知らないうちに使われてしまったり、誰かの芸術作品も一部使って新しい作品をつくるのが可能であるなど、欧米では既に規制が始まっています。日本では高齢者の見守り、役所の案内などに積極的に活用しようとしているようですが、大学の論文、レポートや作文の作成、皆さんの宿題なども可能なので、日本の大学などを始めとする教育の現場では規制する動きが出ています。

さて西東京市では、生徒一人1台のタブレットが貸与されています。タブレットなどで検索エンジンを使えばいつでもたやすく情報が簡単に手に入る時代です。そんな時代に、私たちはたくさんの知識を身に付ける必要があるのだろうかと思えます。調べればすぐ分かるのだから覚える必要あるのかと。ベストセラーとなった

「スマホ脳」という本の中に「Google 効果」という現象について書かれています。それは脳が覚えようとしないうちに、検索して調べた知識がなかなか身につかないことを言うのです。例えば、こんな実験があるそうです。美術館で絵や彫刻などの作品を見た時に、作品の写真を撮らないで見た作品は翌日もよく覚えていたが、写真を撮った作品はさほど記憶に残っていないという実験結果があるのだそうです。それは、簡単に手に入る情報はたやすくこぼれ落ちていく。それはつまり自腹を切っていなかったのだとその本ではいっています。自腹を切ると言うことはお金をかけることに限らず、意識を集中させて向き合うことです。そうして時間をかけて得たものが自分の中に残っていくのだということです。そしてこのように時間をかけて残った知識をどう使うかを考え、深く思考し考えをまとめ表現することが学習です。

しかしチャット GPT はこういった学習の過程、知識を使い、考えをまとめ表現することをテクノロジーが替えてしまうのですから、学習したことにはならないということになります。そう考えると、やはり学習で大事なものは「主体性」です。検索するとき、自分は何を知りたいのか、知らなきゃいけないのか、疑問や課題を解決するために必要な知識は何なのか。そして得た知識をどう使うかを考え、意見交換をして自分の考えをまとめていく学習の過程を大事にしなければ力は付きません。

先の見えない未来を生き抜く子どもたちの学びが問われる時代です。学校は授業で「自ら学ぶ、主体的に学ぶ」ことを身に付けさせることはもちろんですが、学校教育全体で、「主体的に考え行動する力」を育成する教育活動を行う必要があります。3年生の修学旅行の夜に、実行委員会を中心に、その日の反省と改善策を話し合い、よりよい行事にしようと生徒が主体的に動いている姿を見ることができました。また運動会では、練習から本番まで、体育行事委員会が進行をし、委員がその都度話しあって反省と改善を全校生徒に訴える姿、またソーラン節実行委員会が振り付けを指導し、よりよい演技にむけて生徒に訴える姿も見ることができました。本校では生徒が主役、生徒が主体的に考えて行動することを第一にして教育活動を行っていると思えることができました。



修学旅行実行委員会 2日目の夜



全校練習 体育行事委員会



ソーラン節実行委員会

3年生修学旅行～世界遺産「京都・奈良」を訪ねて～

緑輝く季節の中、3年生が京都奈良の修学旅行に行ってきました。コロナ禍のため、小学校の移動教室、中学1年生のスキー教室も中止となり、多くの3年生は義務教育初めての宿泊学習でした。新型コロナの扱いがインフルエンザ並になったこともあり、新幹線が対面の席にできたり、食事の時はマスクをして話しができたりなど、多くの生徒が楽しい思い出ができる旅行でした。特に実行委員会を中心に班長会、室長会では、その日の反省と次の日への改善点を話し合い、よりよい修学旅行となるように取り組んでいた姿は、主体的に考え行動するひばりが丘中学校の生徒の模範でした。学習テーマ「なぜ京都・奈良は人々を引きつける魅力的な都市なのか」をもとに、一人一人が設定した仮説を、現地見学地で検証をしてくれています。事後学習ではそんな仮説の検証をまとめ、世界遺産、京都・奈良の魅力についての発表が楽しみです。



■運動会 6月6日(火)「頂戦～Over The Top～」

雨天の3日(土)のため6日に延期して行いました。今年は、個人の選手種目は行いませんでしたが、選抜リレーや、3年生の学年種目に大むかでのを行うなど、昨年より拡大した形で実施いたしました。学年種目は1年生、2年生がいかだ流し、3年生、IJ学級が大むかです。体育行事委員会が作ったスローガンは「頂戦～over the top～」で、それぞれの限界に挑戦し、運動会を盛り上げていこうというものでした。全学年ともに行進やひばりランなど、とても立派で見事でした。特に3年生はリーダーが先頭に立ち、学年のチームワークと一体感、最後の運動会という気持ちがあふれていました。ソーラン節はソーラン節実行委員が、振り付け、隊列など全て生徒たちで考えて作り上げたものでその演技は圧巻でした。体育行事委員を中心に、どの学年もお互いに応援し合う一体感、達成感のある運動会となりました。PTA役員の方々には、保護者受付や保護者の観覧場所の整理や声かけなどをお願いいたしました。無事に行うことができ本当にありがとうございました。



選手宣誓



1年生 いかだ流し



2年生 いかだ流し



全員リレー



全員リレー



3年生ソーラン節

■保護者の感想から

- ・競技も迫力があり、運営も生徒たちが主体的に行っていることが多くて中学生になったことを改めて実感しました。保護者には体育館を用意していただきましたが、今後天候によっては生徒達への対策も必要ですね。
- ・開会式から大きな声で最高学年らしいしっかりとした姿。リレーではバトンを受け渡しするときに声をかけたりクラスで協力してバトンをつないで一生懸命走る姿を見ることができて嬉しかったです。
- ・観覧スペースをもう少し広くしてほしい、アナウンスのおかげで学年ごと譲り合って観覧できたので競技ごとにもアナウンスをお願いしたい、南門を始めから開けてほしかったなどのご意見は、次年度に生かします。

■生徒の活躍〔敬称略〕

ソフトテニス部 工藤・石山組 11ブロック夏季大会ベスト4 都大会出場決定